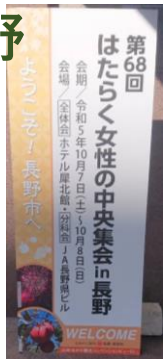
県労連情報

発　行
2023年
10月20日
46-①

長野県労働組合連合会（県労連）
長野市県町593 Rinks593 ３Ｆ TEL026-217-9071 Fax026-217-9073
✉ krn@mx2.avis.ne.jp http://kenrouren.assrv.com/

第68回 はたらく女性の中央集会In長野



10月7日（土）8日（日）、第68回はたらく女性の中央集会In長野が長野市で開催されました。2日間会場参加、オンライン参加で延べ960人が参加し、大きな成果がありました。県労連としても、全体の約4分の1に迫る参236人に参加していただきました。ありがとうございました。

県労連中心に幅広いメンバーで長野県実行委員会を組織し、約1年にわたって5回の実行委員会を開催、中央実行委員会と連携し、準備をすすめてきました。全体会場の抽選に敗れるという衝撃のスタートをきりましたが、知恵を出し合い、励ましあって当日を迎えました。また、実行委員を含め37人にも及ぶ要員のみなさんが活躍し、集会を支えていただきました。

長野県実行委員会として大事にしてきたことは、「長野県らしい集会」「つながり」の2点です。「長野県らしさ」の中でも、本集会のスローガンでもあり、生活の基盤である「平和」を大事にしたいと考えました。長野県には平和を願う地が多くあります。それは、長野県民が経験した過去のつらい歴史から目をそらすことなく、向き合うことで未来へつないでいくという、確固たる信念のもとに脈々と受け継がれてきました。いまの情勢を鑑み、「いまこそ平和」その思いがさらに確信となる、そんな集会にしたいと取り組んできました。

コロナ禍で、私たちは人と人とのつながりがもちにくいつらく長い時間を過ごしてきました。そこで、今まで様々な場面でともに活動してきた仲間たちで実行委員会を組織し、横のつながりを強くしながら、何といっても楽しみながら、さらに大きな輪になるようすすめてきました。また、「はたらく女性」の集会であっても、ジェンダー平等社会実現のためにも男性の参加も積極的にとびかけました。それに応えて、要員も含め、多くの男性が参加していただきました。

県労連情報

発　行
2023年
10月20日
46-①

長野県労働組合連合会（県労連）
長野市県町593 Rinks593 ３Ｆ TEL026-217-9071 Fax026-217-9073
✉ krn@mx2.avis.ne.jp http://kenrouren.assrv.com/

　全体会の会場はホテル犀北館。まず文化行事として「長野合唱団　赤い鳥」の10人の皆さんによる女性合唱から始まりました。3連休であることや予算の制限のため、出演者の決定までには紆余曲折がありましたが、「とても心地よく優しい気持ちになりました。みんな違ってみんないい最後の言葉が心に入ってきて感動しました。」「音楽に乗せたメッセージが心に染みるとてもステキな時間でした。」「すばらしい歌声で癒されました。」など、多くの感想が寄せられました。

　次に、集会の目玉である青木理さん（ジャーナリスト）×小畑雅子さん（全労連議長）との対談です。この対談があるから参加する、という方が多く、期待が高まりました。長野県実行委員会で小諸市出身の青木さんにぜひお願いしたい、という声が実現につながりました。
「どんな社会も、時の強者に物言う者にエールを！日本の民主主義は、自力で勝ち取ったものではない。政権交代を繰り返すことで培われるものである。・・・そういうことなのですね！」「常日頃はどうしても身の回りのことにとらわれてしまいがちですが、今日の対談はジェンダー平等に関する他国の状況やメディアの報道姿勢など興味深い話ばかりで、とてもよい学びの時間となりました。」「権力に抗う本質に触れる意義深い対談だった。」「メディアの問題、日本の民主主義の問題など、関心のある項目について話していただけて、今後の運動を進めるうえで大切な視点を学ばせていただけました。小畑さんの的確な指摘と振りが明瞭で非常に参考になりました。」など、大好評でした。

まだまだ足りない最低賃金！～県春闘共闘が宣伝行動～

　10月2日、県春闘共闘は10月から最低賃金が改定を受け、宣伝行動を実施。7組織13人が参加しました。過去最高となる40円の引き上げで948円になったが、それでも自立して暮らすことはできない。
早期に1,500円の実現を！と訴えました。

最賃音頭を流しながらの宣伝は道行く人の目を引いていました。

県労連情報

発　行
2023年
10月20日
46-①

長野県労働組合連合会（県労連）
長野市県町593 Rinks593 ３Ｆ TEL026-217-9071 Fax026-217-9073
✉ krn@mx2.avis.ne.jp http://kenrouren.assrv.com/

8日はＪＡ長野県ビルで4分科会、
2見学分科会を行いました。

第1分科会「戦争する国にさせないために」
「満蒙開拓団については表面的なことしか知らなかったので、今日の飯島先生の学校での取り組みは本当に刺激を受けました。なぜこれほどの人が死ななければならなかったのかを考えると、改めて戦争が憎い。」「高1の息子を連れて参加しました。」「子ども達への歴史教育の大切さを改めて感じた。」

第2分科会「ジェンダー平等で働き続けたい」
　長野県でJMITU丸子警報器臨時者賃金裁判をたたかった原告の滝沢貴美子と田村廣子さんよる特別報告があり、今こそ振り返るべき歩みでした。「これまで勝ちとってきたことが、活かされていないのはもったいない。学習しながら、共感と共同のとりくみをさらに広げていく必要がある。」「『仕方がない』で済ませない、人として『当たり前』の生活を保障できるようにしたい。仲間って大切ですね！」

第3分科会「食べることは生きること」
　学校給食の現場・無償化に取り組んでいる町会議員、地産地消に取り組んでいる農家のみなさんをパネリストに、病院給食の現状や小学校・高校現場や子ども食堂についても伝えた分科会。「時代とともに給食事情が変わっていること、給食が教育であること、センターの問題、人員体制のことなど、政府は、軍事費にはお金をかけるが、生きていることに必要な食に関しては、生産者や労働者、子どもやその親に強いているとつくづく感じた。」「おやき千代子の小湊さんの一言、『お腹がいっぱいになることで次に向う、闘う勇気が湧いてくる』に胸を打たれました！」

第4分科会「ケアが大事にされる社会へ」
　「医師が足りない！と言うのはm聞いていましたが、こんなに足りないとは！教員も足りないと思っていますが、同様に政治にダマされているのかなと思います。」「楽しく元気に運動の継承。自分で考え知らせる・・・頑張れそうな気がしました。」

見学分科会1「善光寺の歴史に学ぶ」
　白蓮坊住職の若麻績敏隆さんによる善光寺お戒壇巡りを含む見学と、ジェンダー等にも関わる座学。「これから女性の時代だと言うことを美術を用いてお話され、自分との視点の違いに大変感心しました。平和的に長期的に明るい未来見据える女性がこれからの社会を支える必要があると伝わりました。また、死後の世界を考える機会があり、スピリチュアルな考えは難しいと思っていましたが、難しく考える必要はないんだと思いました。」

見学分科会2では松代大本営地下壕見学
　「数々の施設構築　どんな計画だったのか、何のために作られたのか、なぜ松代に…個人では絶対に知らない、行けない　想像も出来ない戦争遺跡見学でした。」「詳しい説明が聞けてとてもわかりやすかった。劣悪な座業が強制され命をおとした朝鮮人も多くいたことがショックです。」「現在の基地問題にしても全て繋がっているんだと再認識しました。」

県労連情報

発　行
2023年
10月20日
46-①

長野県労働組合連合会（県労連）
長野市県町593 Rinks593 ３Ｆ TEL026-217-9071 Fax026-217-9073
✉ krn@mx2.avis.ne.jp http://kenrouren.assrv.com/

オプショナルツアー
（8日無言館や別所など・9日満蒙開拓平和祈念館など）
それぞれ20人近くの方が参加されました。
オンライン要員の皆さんには、事前に入念な計画に加え、前日の午後からオンラインのトラブルにも負けずに周到な準備、当日もスムーズにすすめていただきました。
　今集会では道路事情等により宣伝行動は行なわず、集会としては初めてＳＮＳデモを実施しました。長野市県町の「ピエロの風船屋さん」にバルーンアートを依頼し、事務局でグッズを作成してブースを設置しました。楽しんで写真撮影やＳＮＳ投稿をしていただけました。シェア・リツイート747, いいね1,418、閲覧45,394と、予想以上の結果でした。
2日間にわたって物販の担当の建交労のみなさんも大活躍でした。長野県らしい八幡屋磯五郎やみすず飴、分科会に関わる書籍まで、幅広く販売していただきました。「おやきや千代子」の小湊さんにもおやきを販売していただき、8日は早々に完売しました。
　　2024年は岩手県で開催されます。被災地でもあり、激闘の知事選で勝利した岩手です。10月25日に長野県実行委員会のまとめを行い、次回につなげていきたいと思います。
　みなさまのご協力に心から感謝申し上げます。
（長野県実行委員会事務局長　藤綱みどり）

福島の声を聴く会

　10月15日、原発ゼロ連絡会（事務局：県労連）は高教組と共催で「福島の声を聴く」集会を開催しました。福島県立高教組が震災時に寄せられたカンパをもとに立ち上げた「講師派遣事業」によるもので、オンラインを併用した集会には、15人が参加しました。
　講師として来県した松本佳充さんが、「福島から伝えたいこと」と題して2時間の講演を行いました。松本さんは震災発生時、双葉高校に勤務していましたが、震災後、双葉町を含む県内の多くの地域は避難区域となり、生徒たちは別れの挨拶も出来ないまま、転校したり、他地域の高校に間借りした「サテライト校」（分校）で学びを始めました。体育館を仕切り教室として利用したり、エアコンもなく劣悪な学びの環境、教員の労働環境も過酷なものでした。県教委は「サテライト校での卒業を保障する」としていましたが、その後サテライト校の集約計画が持ち上がり、約束は守られませんでした。
　12年経った今でも松本さんは自宅に帰ることができず、先祖から引き継いだ土地も放棄せざるを得ない状況です。松本さんは、十分な説明もなく強行された処理水の海洋放出について、「デブリに手が付いていない以上、放出の一方、新たな汚染水が発生し続ける」と指摘。「除染も当初は3年の計画だったが、12年経った今も終わらず、経費も4倍に膨れ上がり、大手ゼネコンに税金が投入され続けている。復興関連事業として国家プロジェクトで始まった『福島イノベーション・コースト構想』も地元の要望したものでない」と話します。原発事故の訴訟も地裁・高裁では東電・国の責任を認める判決があるものの、最高裁で国の責任を認めたものはないとのことでした。松本さんは、震災と原発事故について、「どこでも起きる可能性がある事故。福島の経験を風化させず、教訓を全国に伝えたい」とお話を締めくくりました。「震災直後の生徒の状況や苦しみを初めて聴いた」「福島の復興は終わっていないどころか、ねじ曲げられていることに怒りを感じる」などの感想が寄せられました。